

さくら



令和8年1月26日(月)

親孝行



あっという間に1月が終わろうとしています。年が明け、「今年も、今年こそは〇〇を頑張るぞ」と立てた誓いも、いつのまにか忘れてしまっている自分に気づきます。これではいけない、と自分自身に発破をかけ、リスタートしてみませんか。

さて、先日、ある人と話をしていました。内容は親孝行についてです。親孝行とは親を大切にすること。自分が一つ年をとれば、親もまた一つ年をとります。こんな諺（ことわざ）があります。「親孝行したいときには親はなし」いつまでも、親が元気であるわけではありません。自分自身に親を大切にしているだろうかと問うてみて、「できていないな」と感じたならば、思い立ったが吉日です。

私の母は、70歳にさしかかったころに病気を患いました。もともと持病があったため、入退院を繰り返していました。やがて持病が悪化し、手足や指が硬直し、生活に支障が出てきました。それでも、この人は強い人だから大丈夫、とどこかで思っていました。

しかし、徐々に症状が重くなり、やがて長期入院を余儀なくされました。多くの病院は完全看護ですので、息子として母に何かをしてあげることはなくなっていました。これは、介護施設に入った場合も同じです。何もできていない自分に、これでいいのだろうかと思うこともありました。

当時勤めていた学校の校長先生の計らいで、授業と授業の合間に、よく病院に母のようすを見に行ったことを覚えています。その校長先生には、今でも感謝しかありません。

ある時、病院に行くと母が言うのです。「腰が痛いからさすってくれへんか」さすってあげると、「すまん、すまん」と謝るのです。とても切ない気持ちになったことを覚えています。同時に、私が子どもの頃、お腹が痛かった時、母は私のお腹をさすってくれたことを思い出しました。

親孝行の具体的行動はたくさんあるでしょう。お手伝いをする、頑張っている姿を見せる、心配をかけないことなど。そして何よりも、親をいたわり、心をこめて寄り添うことが大切なのではないでしょうか。

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

